国土交通省 関東地方整備局
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism. Kanto Regional Development Bureau.

東京国際空港（羽田空港）の新しい滑走路（Ｄ滑走路）

～埋立/桟橋接続部　渡り桁の架設完了と伸縮装置の施工について～

■　ト　ピ　ッ　ク　ス　■

国土交通省は、我が国空港ネットワークの拠点空港として極めて重要な位置を占める東京国際空港（羽田空港）において、新たに４本目の滑走路となる『Ｄ滑走路建設工事』について、平成２２年１０月末の滑走路の供用開始を目指し、２４時間３６５日の昼夜連続施工により最速で工事を進めています。

現在、埋立／桟橋接続部では、埋立部と桟橋部をつなぐ渡り桁（２７３本）の架設が全て完了し、温度変化による桟橋部の伸縮や地震時における桟橋部と埋立部の異なる挙動に対応するための伸縮装置の施工を行っています。

Ｄ滑走路は桟橋部と埋立部のハイブリッド構造となっているため、温度変化時、地震時にはそれぞれ挙動が異なります。その挙動の相対変位を吸収するために設置されるのが伸縮装置です。

Ｄ滑走路の伸縮装置は、ローリングリーフジョイント、Ｓジョイント、ＤＰジョイントと呼ばれる３つのタイプがあり、滑走路や誘導路にローリングリーフジョイント、場周道路にＤＰジョイント、着陸帯にＳジョイントを埋立／桟橋接続部における延長約４３０ｍにわたって設置します。

伸縮装置の設置は、今後も引続き施工が行われ、平成２２年６月頃に全ての伸縮装置の設置が完了する予定です。

平成２２年４月７日（水）
国土交通省　関東地方整備局　東京空港整備事務所

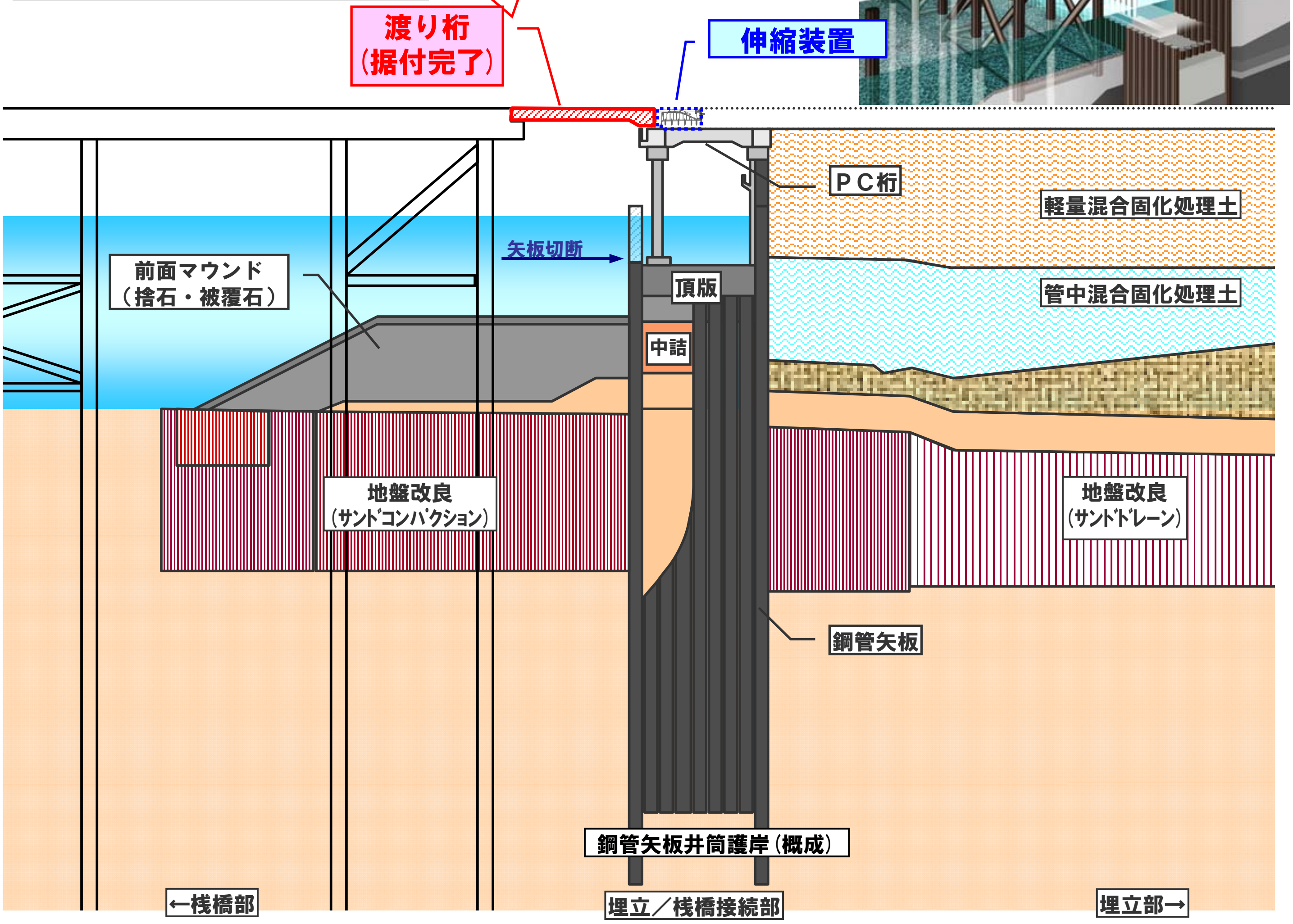
問い合わせ先

国土交通省　関東地方整備局　東京空港整備事務所
第五建設管理官室　先任建設管理官　押田和雄・建設管理官　三浦一浩
住所　東京都大田区羽田空港３－５－７　メンテナンスセンターアネックス　５階
電話　０３－５７５６－６５８０
ＨＰ　http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/

～埋立／桟橋接続部について～

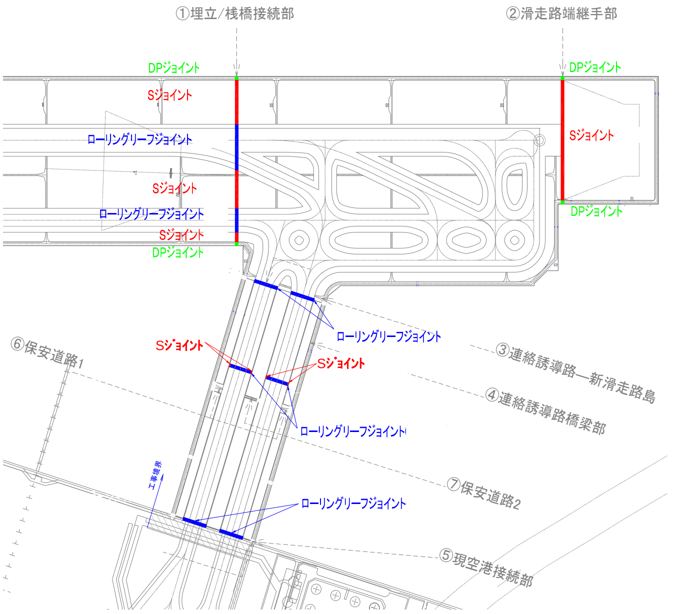
東京国際空港全体図

埋立／桟橋接続部　断面図



～伸縮装置について～

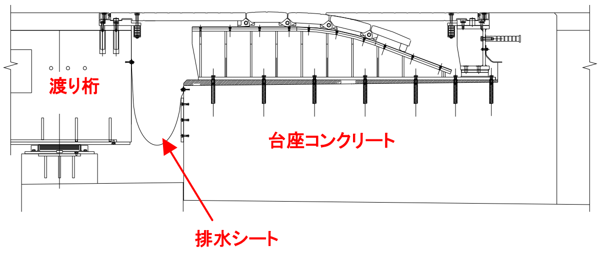
1．伸縮装置の概要

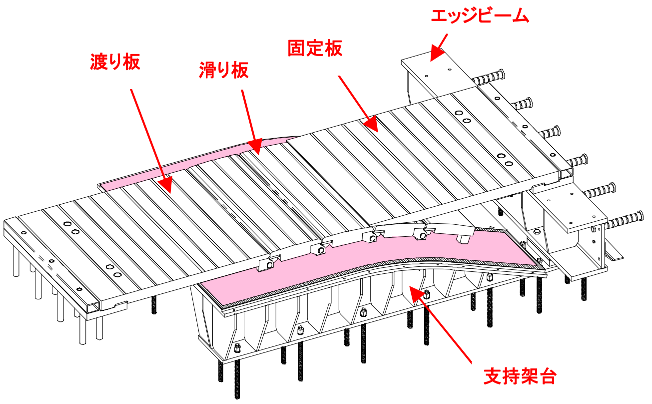


伸縮装置は、桟橋部と埋立部の温度変化時、地震時の相対変位を吸収するために、埋立／桟橋接続部をはじめ滑走路端継手部や連絡誘導路に設置されるものです。
D滑走路には滑走路、高速脱出誘導路、平行誘導路、場周道路、着陸帯・誘導路帯の5種類の設計区分があります。このうち、常時において航空機が走行する滑走路、高速脱出誘導路、平行誘導路にはローリングリーフジョイント、着陸帯・誘導路帯には、機構の簡単なSジョイント、自動車が走行する場周道路には、DPジョイントが設置されます。

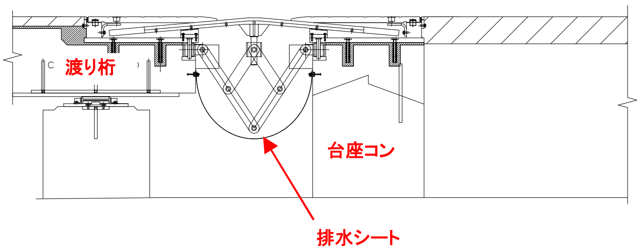
2．伸縮装置の構造

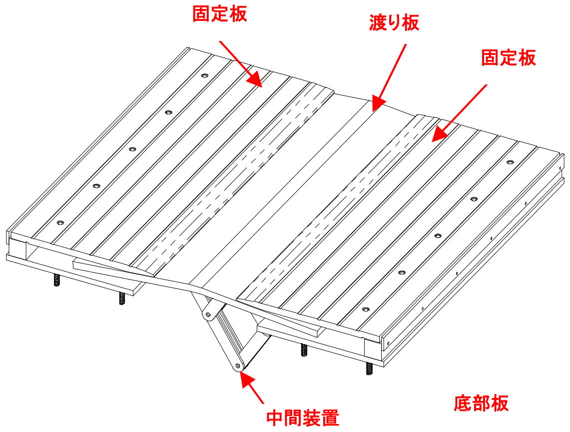
ローリングリーフジョイント



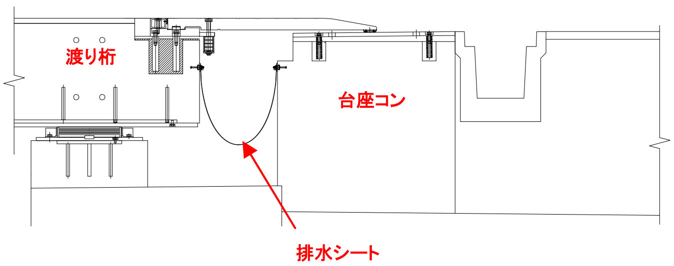


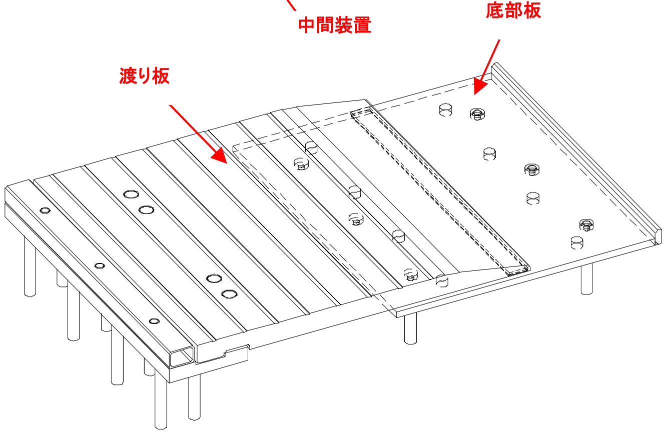
DPジョイント





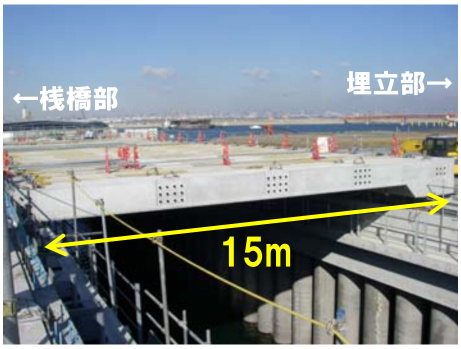
Sジョイント

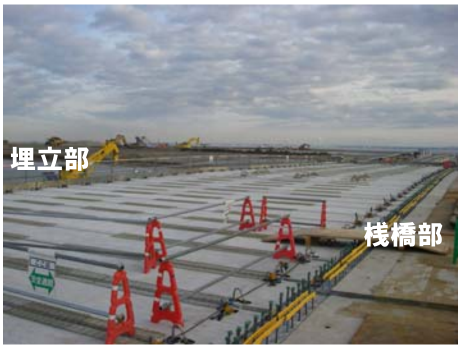




～施工状況写真～

渡り桁施工状況

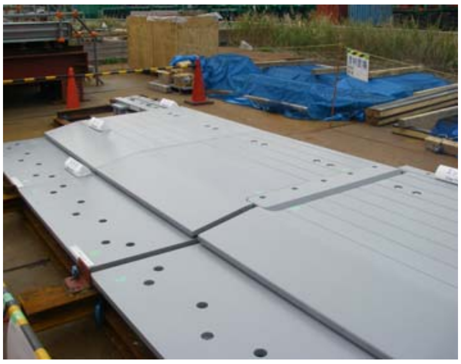


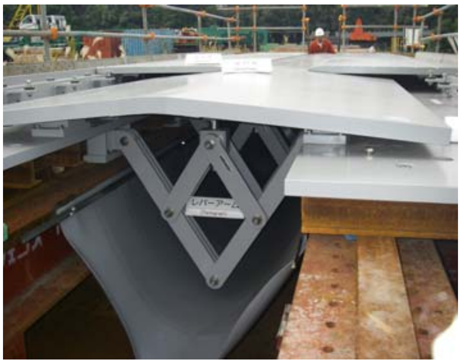


伸縮装置施工状況

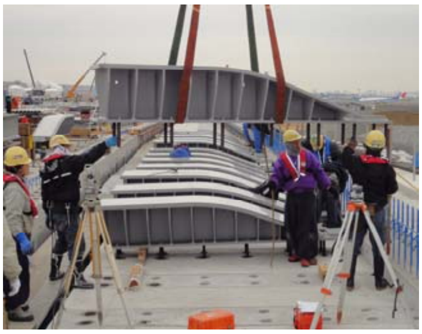
■伸縮装置仮組立の状況

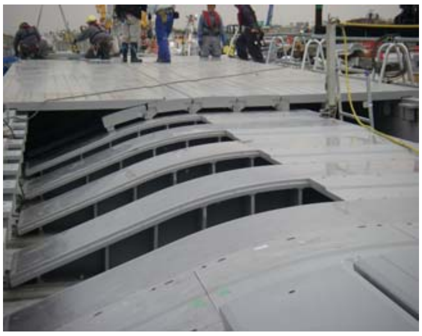
※作業員の施工性確認のために羽田現地で施工を行う前に千葉県のヤードで仮組立を行いました。

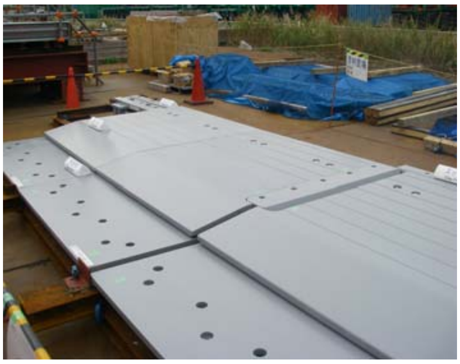
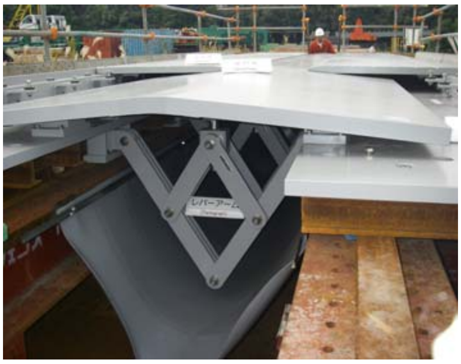
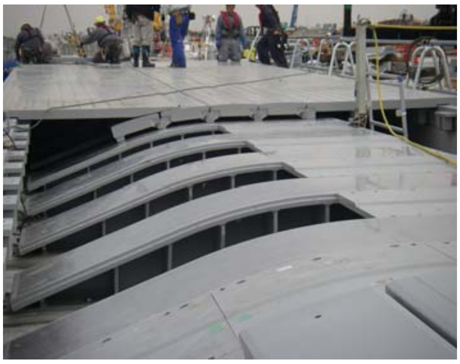




■現場施工状況（埋立／桟橋接続部）





～伸縮装置施工状況～

施工状況写真